

沿 革

明治5年に壮猶館(旧藩校)から発足した金沢区方開拓所(明治6年より金沢区方勸業場)が、明治9年12月に農事社と称する研究所へ移管され、石川県勸業試験場と称した。その機能は明治13年7月に石川県勸業博物館、明治42年5月に石川県物産陳列館へと継承された。

石川県工業試験場 (大正7年～昭和11年)

- 大正 7年 8月 機織、色染、分析、窯業、漆工、図案、庶務からなる石川県工業試験場の設置を農商務大臣より認可。
- 12月 金沢市長土堀5番丁1番地に建築工事を着手。
- 大正 9年 3月 石川県工業試験場と定め、染織工業、化学工業、意匠図案の3部を設置。
- 大正10年 4月 石川県工業試験場を開場。
- 昭和 3年 4月 工業試験場分場を江沼郡大聖寺町、鳳至郡輪島町に設置。8月10日開場。

石川県染織試験場・石川県工芸指導所 (昭和11年～昭和37年)

- 昭和11年 4月 機織、色染及び図案の3部をもって石川県染織試験場と改称し、大聖寺分場は染織試験場分場となる。窯業、漆工及び図案に金工を加えた4部をもって石川県工芸指導所を設置し、輪島分場は工芸指導所支所となる。
- 昭和12年12月 金沢市泉旭町2丁目105番地に工芸指導所建物竣工。

石川県機械工業指導所 (昭和16年～昭和37年)

- 昭和16年 4月 石川県経済部商工課に石川県機械工業指導所を設置。
- 昭和17年 5月 金沢市勝尾町1番地に機械工業指導所建物竣工。同時に石川県機械工養成所を併設。
- 8月 染織試験場を石川県繊維工業指導所に改称。
- 昭和18年 7月 第二次世界大戦の進展に伴い工芸指導所化学科の業務を残し、3試験研究機関の他の業務を中止。機械工養成所は戦時生産技術者養成所として存続。
- 昭和21年 3月 戦時生産技術者養成所廃止。
- 4月 3試験研究機関の業務を再開。
- 昭和25年 4月 繊維工業指導所を石川県繊維工業試験場と改称。
- 昭和34年 4月 繊維工業試験場、機械工業指導所及び工芸指導所を統合した総合試験場を建設のため、金沢市米泉町4丁目に用地を買収。
- 昭和36年 7月 本館及び繊維棟竣工。
- 8月 繊維工業試験場施設の移転完了。

石川県工業試験場 (昭和37年～)

- 昭和37年 4月 石川県工業試験場発足。管理部(庶務課、企画課)、繊維部(機織科、繊維科学科、染色科)、機械部(機械科、精密科、金属科)、工芸部(デザイン科、化学科、工芸第一科、工芸第二科)の4部編成。
- 5月 機械棟、工芸棟竣工。
- 7月 竣工式
- 昭和38年 4月 繊維部の繊維科学科を廃止し指導科を設置。工芸部を産業意匠部に改称し、デザイン科を意匠第一科と意匠第二科に分け、工芸第二科を技術科に改称、化学室を廃止し、無機化学科と有機化学科に、工芸部より分離した工芸第一科を窯業科に改称して加えた化学部を設置。
- 5月 石川県工業試験場技術振興協議会発足。
- 昭和41年11月 珪藻土開発研究室設置。
- 12月 繊維機械開発研究室設置。
- 昭和42年 4月 化学部の無機化学科、有機化学科を廃止し化学工業科と分析科を設置。
- 昭和44年 3月 企画課廃止。
- 昭和46年 4月 工業技術情報室を設置。
- 昭和49年 4月 珪藻土開発研究室を公害防止技術研究室に改称。
- 昭和51年 4月 石川県デザイン振興会を設置。

- 昭和52年 9月 石川県技術顧問制度を設置。
- 昭和55年 1月 工業試験場建設のため、金沢市戸水町・藤江地内に用地を買収。
4月 石川県生糸検査所(金沢市芳斉1-1-25)が廃止され、業務の一部を工業試験場繊維部が引継ぎ、同所にて分室として発足。技術指導室、電子応用研究室を設置。
7月 技術アドバイザー制度設置。
- 昭和56年 4月 繊維部の業務を分室に全面仮移転。工業技術情報室と技術指導室を統合し、情報指導室に改称。
10月 旧繊維棟の用地を三馬第二小学校用地として金沢市へ売却するため、同用地、繊維棟、本館の一部及びボイラー室等を管財課へ引継ぐ。(金沢市において取り壊し)
11月 新工業試験場起工式。
- 昭和57年 4月 庶務課を総務課と改称し管理係と業務係を設置。情報指導室を情報指導部とし、機械部を機械電子部に改称。繊維機械開発研究室を廃止し繊維部に統合、産業意匠部を特産意匠部に改称、公害防止技術研究室を廃止し化学部を化学食品部に改称、同室を統合。科制を廃止し業務担当制に改組。
8月 石川県工業試験場技術振興協議会を廃止し石川県技術振興会議に改組。
12月 新工業試験場実験棟竣工。
- 昭和58年 3月 石川県工業試験場技術顧問制度を廃止し石川県技術顧問制度に改組。
4月 石川メイド生産機械設置事業を開始。
窯業部門を分離し、小松市正蓮寺町に石川県九谷焼試験場を発足。
6月 新工業試験場管理研究棟竣工。
8月 移転を完了、住所を金沢市戸水町口1番地に定める。23日新工業試験場竣工式。
石川県デザイン振興会を発展解消し財団法人石川県デザインセンター設立。
9月 石川県九谷焼試験場竣工。
- 昭和59年 9月 産業振興ゾーン(新工業試験場、石川県地場産業振興センター、石川県鉄工会館、石川県繊維会館)の整備完了。
- 昭和62年 4月 客員研究室を設置。
- 昭和63年 4月 先端材料開発研究室を設置。
- 平成元年 4月 石川トライアルセンター準備室を設置。
6月 石川県研究情報ネットワーク「ハイテクネット石川」開局。
8月 石川ハイテクサテライトセンターU.S.A.を開設。
- 平成 2年 4月 特産意匠部を製品科学部に改組しデザイン開発室を設置。
先端材料開発研究室、石川トライアルセンター準備室を廃止。
石川トライアルセンターを設立。18日開所式。
- 平成 4年 3月 食品加工実験棟竣工。26日竣工式。
4月 食品加工技術研究室を設置。
- 平成 6年 3月 食品加工実験棟増築竣工。
- 平成 7年11月 製品開発・事業化アドバイスセンターを開設。
- 平成 8年 2月 インターネットに接続、ホームページ開設。
- 平成 9年 3月 石川県新分野創造開発支援センター竣工。
6月 科学技術庁フェロウシップ制度で外国人研究者受入れ機関として認証。
- 平成10年 2月 太陽光発電システム装置を設置。
- 平成11年 3月 石川県技術顧問制度を廃止。
4月 モノづくり試作開発支援センター(機械加工、繊維加工)を開設。
石川トライアルセンター、石川県新分野創造開発支援センターを(財)石川県産業創出支援機構に移管。
- 平成12年 2月 国際環境規格 ISO14001の認証取得。(平成17年4月から県庁のシステムに統合)
- 平成13年 2月 高度計測機器を整備し国際標準試験所認定取得のための体制づくりを開始。
7月 石川県技術振興会議廃止し工業試験場技術振興委員会に改組。
- 平成14年 3月 国際標準試験所認定 ISO/IEC17025を取得。(JNLA：繊維製品分野)
4月 工業試験場と九谷焼試験場を統合し、九谷焼試験場を工業試験場九谷焼技術センターに改称。
10月 土地区画整理事業の換地処分により、住所を金沢市鞍月2丁目1番地に表示変更。

- 平成15年 2月 県内中小企業の新製品開発力強化のため、モノづくり支援センターを開設。
3月 国際標準試験所認定 ISO/IEC17025を取得。(JAB：機械・物理試験分野)
4月 情報指導部を企画指導部、機械電子部を機械金属部、繊維部を繊維生活部、製品科学部を電子情報部に改組し、デザイン開発室を繊維生活部に改編。
石川トライアルセンター、石川県新分野創造開発支援センターの運営管理を工業試験場に移管
- 平成16年 2月 モノづくり支援センター(電子電気系)を開設。
3月 国際標準試験所認定 ISO/IEC17025を取得。(JAB：化学試験分野)
7月 研究外部評価委員会を設置。
- 平成19年 3月 国際標準試験所認定 ISO/IEC17025(繊維、機械、化学の3分野)を JNLA に統合。
- 平成20年 2月 国際標準試験所認定 ISO/IEC17025を追加取得。(JNLA：電子試験分野)
- 平成23年 2月 いしかわ次世代産業創造支援センター増築竣工。
4月 いしかわ次世代産業創造支援センター開所。
次世代技術開発支援プロジェクト室と再生可能エネルギー技術開発プロジェクト室を設置
- 平成24年10月 工業試験場50周年記念事業開催。(4日～6日)
- 平成27年 3月 3Dモノづくりラボを開設。
- 平成28年 4月 (国研)産総研中部センター石川サイト開設。
3Dものづくり推進プロジェクト室を設置。
- 平成29年 1月 IoT相談窓口を設置。
- 平成30年 4月 次世代技術開発支援プロジェクト室を複合材料技術開発プロジェクト室に改称。
10月 いしかわ AI・IoT 技術支援工房を開設。
- 平成31年 3月 3Dモノづくりラボを拡充し、3Dものづくりラボ(イノベーションゾーン、アクティブゾーン)を開設。
4月 AI・IoT 技術支援室を設置。
- 令和 2年 4月 再生可能エネルギー技術開発プロジェクト室を環境技術開発プロジェクト室に改称
- 令和 3年 4月 いしかわ AI・IoT 技術支援工房をいしかわデジタル技術支援工房。AI・IoT 技術支援室をデジタル技術支援室に改称。
7月 依頼試験・開放試験の受付にパソコン導入。